

始事『電氣事業』たれた



東京銀座電燈建設之圖

電氣燈ハ米國人ノ新發明シテ他ノ火ノ點スルニ非スシテ一ノエレキ器械ヲ以テ火光ヲ發シ其光明數十河ノ遠キニ達シ恰モ白晝ノ如シ實ニ日月ヲ除クノ外之ト先ヲ同スルモノナシ

東京電灯は、開業に先だつ明治十五年十一月一日、大倉組（銀座二丁目）内の創立仮事務所前にアメリカのブラッシュ商会の技師ポッター氏が持ってきた二千烛光のアーケ灯をつけて、電灯の実物宣伝を行った。上の絵はその時の光景で、ガス灯はおろか石油ランプさえ全国に行きわたらない頃のこととして、電灯の光芒に全く肝をつぶし、「世界で一番明かるいのはお太陽様その次はお月様、三番目はこのアーケ灯だということで、引きも切らずの人だかり」であった。わずか一基の電灯がこのようなに時人の人気をさらつたことは、全く隔世の感が深い。

明治十九年七月五日に開業し、翌年の一月二十二日、当時の社交場であった鹿鳴館ではじめて営業用の白熱電灯を点けたが、それより少しおくられて、明治二十三年十一月に、当ても大衆の歓楽境であった浅草に五万五千円という莫大な金をかけて新築された総棟瓦造りの凌雲閣（通称十二階、高さ三十六間）のエレベーター